

3 戦後の人々の生活

戦後になると、復興とともに人々の生活も大きく変わっていきます。昭和20年代には復興宝くじの発行、農業振興祭やおばこコンクールが開かれるなど、生活の中に明るい話題が増え、駅前商店街も活気であふれていきました。

長さ・面積の単位も尺貫法からメートル法に統一されるなど、暮らしの中の常識も変化していった時代でした。

こうした中、昭和39（1964）年には東京オリンピックが開催され、新たな交通網の発展や都市開発により、一気に戦後好景気の波がやってきます。これにより、大曲地域を中心に都市開発が進み、街並みも大きく変化していくことになります。

また、戦後に新しい技術や産業が発展したことで、人々の生活は豊かになっていきました。地域の発展とともに、昭和、平成そして令和と、地域の人々の生活スタイルもどんどん変化しています。

現在では、どこにいてもモノや情報がいつでも手に入る時代になっています。



庶務事務簿（昭和24年）

大沢郷村役場文書（仮番号 2093）

戦後、県では宝くじを販売し、財源不足を補いました。宝くじの景品に当時の価値観を見ることができます。

- 特等 嫁入道具一式 5本
- 1等 ミシン1台 10本
- 4等 ゴム長靴 75本



第四回秋田県道路復興宝くじ（昭和27年）

渡邊勝巳資料（仮番号 1-20）



商工課スクラップブック

大曲市役所文書 S-03-163103~06

大曲市役所商工課が作成。昭和20年代から30年代の大曲市内で開催された商工イベントや調査等の写真を整理したスクラップブック。



「大曲の花火」の宣伝カー（大曲町役場前 昭和20年代）

大曲市役所文書(S-03-163103)



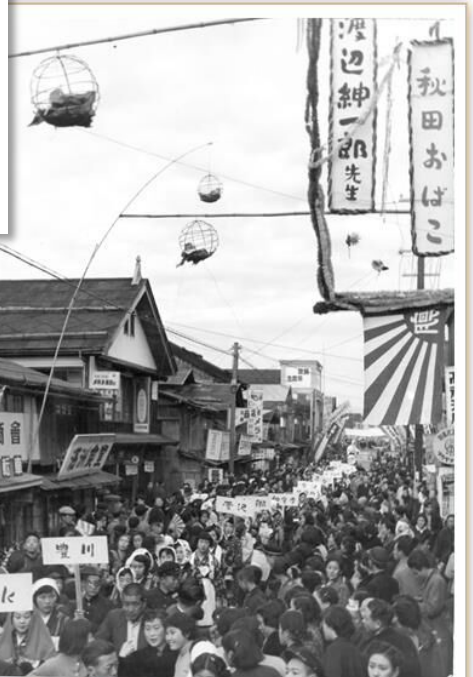
旧正月の市（大曲駅前 昭和30年代）

大曲市役所文書(S-03-163104)



駅前商店街のにぎわい（昭和30年代半ば）

大曲市役所文書(S-03-163104)



第2回おほこコンクール（昭和28年）

大曲市役所文書(S-03-163103)

買い物はメートル法で！～昭和34年1月から完全実施～



昭和34年1月の本格実施を前に、各自治体では普及活動を行いました。

大曲市役所文書(S-03-163104)

大正10年にメートル法が採用されましたが、昭和30年代になっても尺貫法が使われていました。





SCRAP BOOK（大曲市合併後の公共施設写真）

大曲市役所文書(S-01-115201)

合併前の旧役場庁舎が記録された貴重なスクラップブック。



花館支所



四ツ屋支所



角間川支所



藤木支所

井上一郎写真資料

大曲地域出身(1904年・明治37、内小友村生まれ)。盛岡高等農林学校卒業、秋田県信用農業協同組合連合会、生産連協、指導連の理事などを歴任。退職後は内小友でリンゴ農家。

農村の姿を写真に記録したアマチュア写真家。井上 が昭和28(1953)年から5年間撮影した内小友 や大川西根、花館、大曲などの写真は、『村の一年一秋 田一』(岩波写真文庫、1956)、『写真集 米づくり の村』(家の光協会、1977)にまとめられています。

この資料は、平成26(2014)年、遺族(井上兵 夫氏)から大仙市に寄贈された写真資料2,871点 (アルバム、ネガ)であり、大仙市アーカイブズ開館 を契機に当館所蔵となりました。高度経済成長を迎える直前の村の様子・民俗が記録された貴重な資料です。



みんなでおしゃべりに（昭和30年代）

井上一郎写真資料



我が家の自家用車（昭和30年代半ば）

井上一郎写真資料



支払いはお米で（昭和32年頃）

井上一郎写真資料



もう一つの公共交通（昭和30年頃）

井上一郎写真資料